

坂口正雄理事が学園の新理事長に就任(8月1日) 学園創立100周年に向けて、所信「これからの学園」を発表

**学生、保護者、卒業生、教職員は「四位一体」(家族) !!
社会と学園の永続的な成長と発展を目指す**

所 信

●学校法人大阪工大摂南大学
理事長 **坂口 正雄** (さかぐち まさお)

私は学園設置学校・大阪工業大学の卒業生です。大学では素晴らしい先生方と出会うことで、多くの専門知識・技術を修得するとともに、人間力を鍛えていただきました。卒業後は企業というフィールドで社会に貢献し、経営的視点も学んだつもりです。3年前からは縁あって理事として本学園を見してきました。卒業生ということもあり、学園に対する愛情は人一倍強いと自負しています。そんな折、さらなる学園の発展に向けて理事長就任の要請をされました。本当に私で良いのか、何に貢献できるのか自問自答するため、8代理事長として長きにわたり学園を今日の発展に導かれた藤田進先生のお墓に参りました。そこで、今の自分があるのは学園で教育を受けたからこそであると思ひ至りました。建学の精神を振り返り、次代の日本、そして世界に向けて優れた人材輩出に命を懸けて尽力していきたいと思ひます。

理事長就任に当たり、私の理念・方針である「これからの学園」を策定しました。何より重要なことは、「人材を育成する」という本学園の最大の目的に向かって、事業を推進していくことです。そうした目標を具体化するための考えについて述べます(各項目の内容については4～5ページを参照)。

「これからの学園」の全体像

—長期目標達成に向けた取り組み、ガバナンス体制の強化—

「これからの学園」の構成は、私の学園経営の哲学を言語化した「経営理念」と学園が創設以来大切にしている「建学の精神」、および教育の基本的な考え方である「教育の理念」に依拠し、学園を取り巻く環境や社会のニーズに合致するように、経営ビジョンの実現に向けた長期目標を設定しました。その長期目標を達成するための取り組みや戦略、ガバナンス体制の強化などで構成しています。

経営理念

—学生・生徒、保護者、卒業生、教職員は四位一体の「家族」—

学園にはさまざまなステークホルダー(関係者)が存在しますが、最も大切にしたい対象を「学生・生徒」「保護者」「卒業生」「教職員」と考えています。それらを「四位一体」、つまりひとつの「家族」(絆～きずな～)ととらえた経営をすることで、多くの優秀な人材を世に送り出し、社会と学園の永続的な成長と発展を目指したい。そのために必要なのは、「互いの信頼関係」とその信頼を生み出す「コミュニケーション」と考えます。

建学の精神・教育の理念

—学園創設者たちの強い情熱—

80余年の歴史を持つ本学園は、創設者たちの強い情熱によって生まれました。その思いは建学の精神に込められています。その精神に依拠し、教育の基本的な考え方である学園設置各学校の「教育の理念」が既に言語化されています。共通する理念



■プロフィール
大阪工大電気工学科卒。きんでん代表取締役副社長、メックス代表取締役社長、代表取締役会長などを務める。03年7月から学園理事。06年8月から現職。69歳。

は「対人能力に優れた、現場で活躍できる知的専門職業人(プロフェッショナル)の育成」です。

長期目標・外部環境分析・経営のビジョン —学園創立100周年に向けて—

2022年の創立100周年に向けた目標です。長期目標は外部環境分析に基づいて設定し、その前提に経営のビジョンがあります。100周年を迎えるまでの16年間で、世の中は“グローバル社会”から“ユニバーサル社会”へと進展するものと考えます。卒業生がユニバーサルな社会を自ら創造し、その社会でプロフェッショナルな人材として活躍している状態を目指したい。そして、社会から評価される人材を輩出し続けることで、リーディングポジションの座を獲得したいと考えます。

※年齢、性別、国籍、障害などの違いにかかわらず、誰もが暮らしやすい社会

取り組み・戦略

—意識改革はすべてを支える基礎—

長期目標を達成するための重点課題は「経営理念を実現すること」「教育を徹底して強化していくこと」「学園の組織を強化すること」「教職員の意識改革を実行すること」だと考えます。教育政策については、アドミッションポリシーに合致する学生募集、教育理念を実現するための教育・学生サービス・研究の事業展開、ディプロマ(卒業)ポリシーを実現する人材の輩出を、一貫した理念に基づき行うことで、長期目標を達成しなければなりません。組織政策については、まず経営組織、意思決定プロセスの大改革、ガバナンス強化を中心とした組織改革、さらに教職員の人材育成強化、財務改革が必要です。意識改革は、すべてを支える基礎として重要であり、実現していきたいと考えています。

ガバナンス体制

—俊敏な意思決定、動く組織を実現—

学園の経営戦略を検討するための機関として「経営会議」を新たに設置します。また、学園の最大課題である「人材」と「財政・情報システム」の問題解決のため、常務理事を2人任命しました。次に経営戦略の検討・策定全般にかかわる業務をするための新たな組織「経営企画室」を設置します。各決定戦略については、責任を持って各学校で執行していくものとして、学校長に任を全うしていただきます。常勤の理事にはそれぞれ担務を与え、その執行に責任を持っていただく考えです。こうした体制づくりによって、俊敏な意思決定、実行力のスピードアップを図り、責任と権限を明確にすることで、動く組織を実現したいと考えています。

広範なご理解を得て、ご支援をお願いいたします。